



## 園児たちは名役者

普代児童館（野崎貞信館長、園児84人）の生活発表会が11月26日、同館のホールで行われました。この日のために練習してきた園児たちは、ときど

き照れながらも、ステージ狭しと一生懸命歌ったり、踊ったり（写真）。ホールを埋め尽くしたおばあちゃんやお父さんお母さんは、元気いっぱいの名役者たちの演技に盛んに拍手を送っていました。何をやってもかわいい子どもたちの「生活発表会」でした。



## 自慢芸で善意の輪

第七回歳末たすけあいチャリティ演芸会（県共同募金会普代分会、村社会福祉協議会共催）が十二月五日、村社会体育館で行われました。園児や児童、婦人会らが出演し、多彩な出し物を披露。約四百六十人の観衆を楽しませました（写真）。

演芸会は園児のダンスメドレーで幕を開け、各婦人会や小中学校など二十団体が出演し、歌や踊りなどが次々に繰り広げられました。演芸会は毎年行われ、今回の益金約十万円は県共同募金会普代分会に寄付されました。

## 生命の大切さ学習

黒崎小学校（佐々木一夫校長、児童14人）は12月3日、「サケの採卵授精」の実習を行いました（写真）。採卵授精は普代村漁協の下道勇次栽培漁業係長の指導で、上級生が行い、子どもたちは新たな命が吹き込まれる瞬間を食い入るように見つめていました。3年の正路優美さんは「卵がいっぱいふ化して、4年後サケがたくさん戻ってきますように」と願っていました。

同校の命の大切さを学習するこの体験は、昭和57年から行われています。

